

(5) 次は、この文章を読んだあとに、前さんと鳥さんが故事について話し合っている場面の一部です。これを読み、あとの(a)、(b)の問いに答えなさい。

前さん この文章は、田を耕す宋人の愚かな行動を中心に書かれているね。

鳥さん そうだね。「宋人」というので、「助長」という故事成語が浮かんだよ。生育を助けようとして苗を引っ張って枯らしてしまった人の話だよ。これも「宋人」だった。

前さん 宋人の話は、ちょっと残念な人の例として残っているんだね。物語に不特定の人が出てくる場合、日本だと「昔男ありけり」で始まるものが有名だけど、中国だと「宋人」とか「楚人」とか、どこの国の人かとなるんだね。

鳥さん 「楚人」と言えば「**I**」を思い出すね。

前さん 何でも突き通せる矛と、絶対に突き通せない盾を同時に売っていた話だね。これは論理の隙を突かれた感じで、愚かにしても質が違いそうだよ。

鳥さん なるほど。隙があるというのは、ほかはきちんと理屈に合っているということだものね。「守株」や「助長」の場合は、**II** 感じがする。

前さん それなら意味が近いのは「蛇足」かな。蛇の絵を早く描く競争で一番に描き上げておきながら、足を付け加えて失格になった。これも楚の国の話だったよ。

(a) 〈文脈〉 **I** に入る故事成語を、漢字二字で書きなさい。

(b) 〈主題〉 **II** に入る説明として最も適当なものを、次のア

イのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 目標として考えていることが小さすぎて、そのあと取り組む大げさなしかけに見合っていない

イ 正直にこつこつと働けば生活していけるはずなのに、少し余分に欲を出したためにうまくいかなかった

ウ 行動から導き出される結果の予想が間違っているし、余計なことを考えてかえってよくない結果を招いた

エ 一生懸命考えて立てた計画には間違いがないのに、それを実現させる才覚がなかったために失敗した

三 次の文章を読み、あとの(1)～(6)の問いに答えなさい。

高貴な人 ^ア やんごとなき人、^ア にはかに ^ア いたづきにかかれりけり。たやすからぬ ^ウ 様なりければ、今、^イ このくすし一人に任せんもいかなり、^ウ 彼もくすし ^イ の道には世の常ならねば、^Ｂ これと心を合わせて、^Ｃ 薬調ぜよと言へば、^イ 初めのくすし ^Ｄ 頭ふりて、^エ さらば、その世の常ならぬ者に任せたまへ、

かかるこのようなきとみのいたづきを療治せん人と話し合つてどうしてできようかに、人を語らひてはいかなるほどで出で来べ ^イ きと言ひければ、^エ げにもとて初めの^エ に任せてければ、そのいたづきも ^イ すみやかに怠りぬ。
快復した

(松平定信『花月草紙』による。)

(1) 〈仮名づかい〉 文章中の ^Ａ にはかに を現代仮名づかいに改め、
全てひらがなで書きなさい。

(2) 〈内容把握〉 文章中の ^Ｂ 世の常ならねば の意味として最も適当なもの、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。
ア 人並なので イ 風変わりなので
ウ 優れているので エ 常識がないので

(3) 〈内容把握〉 文章中に ^Ｃ これと心を合わせて、薬調ぜよ とあるが、こう言った理由として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

ア 急な病気で、正式なくすしに頼むことができなかったから。
イ 高貴な人なので、くすしが二人いてどちらも譲らなかったから。
ウ 病状がわからず、どのくすしがふさわしいか決めかねたから。
エ 病状が難しく、一人では対処できない心配があると思ったから。

(4) 〈内容把握〉 文章中の ^Ｄ 頭ふりて が意味していることを表す熟語として最も適当なものを、次のア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

- ア 拒否 イ 思案
ウ 感心 エ 承諾

(5) 文章中に ^Ｅ 初めの^エ に任せてければ とあるが、これについて次の(a)、(b)の問いに答えなさい。

(a) 〈内容把握〉 「初めの」は、文章中の ^ア やんごとなき人、^イ このくすし、^ウ 彼、^エ その世の常ならぬ者 のうちのどの人物か。ア～エのうちから一つ選び、その符号を答えなさい。

(b) 〈内容把握〉 このようにした理由を、「という言葉に納得したから。」に続くように、**十字以上、二十字以内**で書きなさい。

20									
10									

という言葉に納得したから。

